

令和4年度 学生支援プロジェクト事業中間報告



国立大学法人香川大学学生総合防災無線局
「つなぐ」プロジェクト実行委員会

プロジェクト事業概要

本プロジェクト事業は、災害時の情報伝達や無線通信の重要性を大学や地域・社会に向け発信することを主たる目的とする。

災害時には有線通信が使用できなくなり、情報伝達が困難になる可能性があります。しかし、無線通信は生き残り情報を伝えることが可能です。東日本大震災でも、多くの地域で有線通信が途絶えてしまいました。そのような状況下でも、無線通信を用いてライフラインの寸断や救助要請等の重要な連絡通信を行ったことで、数々の命が救われました。

本事業は、前年度同様、以下の三項目を事業目標とします。

- ・ 災害時に不可欠である無線を『**発信**』する。
- ・ 災害時に不可欠である無線に関わる人員を『**育成**』する。
- ・ 災害時に不可欠である無線を『**活用**』する。

第1回通信訓練の実施

本年度購入したデジタル簡易無線機の台数を強化し、災害時を想定した「第1回通信訓練」を実施した。第1回では災害時に発生する問題点を「物資」「ライフライン」「定員」「負傷者」「トラブル」それ以外の「シークレット情報」の6項目に分けてカードを作成。振り分けられたカード内容から自分なりにシナリオを考えて行った。



図1 情報収集を行う本部の様子



図2 情報発信する移動局の様子

第1回通信訓練の実施（続き）

一から作成した情報カードを利用した災害時を想定した通信訓練の実施により本事業の事業目標である

- ・無線に関わる人員を『育成』
- ・無線を『活用』

の二項目を満たしたとともに部内では、リスクの創造やアドリブに対する柔軟な対応力，無線の重要性の認識と一層の団結力などが向上した。



次回への課題では、

- ・カテゴリー別でカードの枚数にばらつきがある。（現実的ではある。）
- ・場所の把握がしづらい。→各キャンパスの地図を用意する。
- ・アドリブについていけない。

以上の内容に加えて次回の通信訓練に備えて，防災のプロフェッショナルを講師として呼びし，これまでの通信訓練を踏まえた防災講義を実施する。

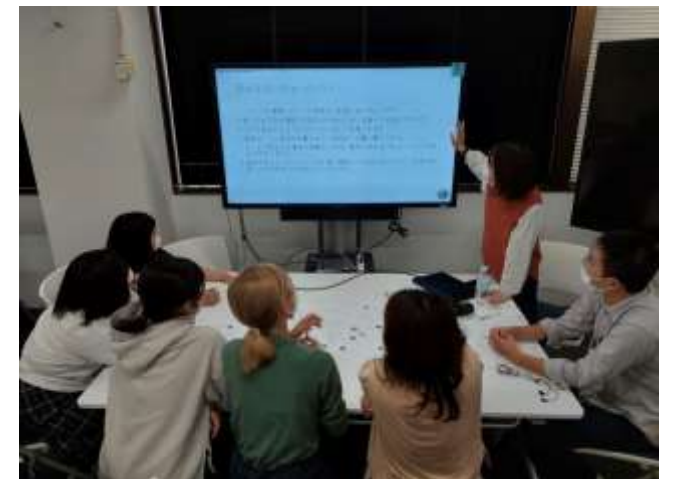


図3.4 訓練後の反省会の様子

連携（学内）

香川大学学生危機管理連合へ加盟

香川大学内の危機管理に関する組織が集まり、共同訓練などを実施

香川大学学生総合防災無線局

学内連携ネットワークの構築

香川大学防災士クラブ

香川大学防犯パトロール隊

防災リテラシー特別講演会の開催

- 令和4年11月03日に開催された「災害時の大規模停電を知る」の企画を連合加盟団体として実施した。ハイブリット形式で開催され、約50名参加する大規模な講演会となった。
- 本講演会に参加したことで、各団体ごとに有事の際に必要な対策方法と課題発見など更なる知識の習得に繋がった。



図5 講演会の様子

年間計画

	到達目標
1年目	無線局の開設
2年目	無線局の運用開始、局員募集、連携団体との調整
3年目	各イベントへの参加や本学学生向けへの発信



	到達目標（補正後）	
	発信・活用	育成
4年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平時から無線に慣れる活動（無線局＋防犯パトロール隊員） ・ 非常通信訓練で実践（以降毎年実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 香川大学学生危機管理連合や四国瀬戸内圏災害通信連合と共同での講習会の実施
5年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無線従事者の高齢化が問題 → 若年層に興味を持ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国瀬戸内圏災害通信連合を介した四国瀬戸内圏規模の広域連携
6年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携を活用して地域の方々に無線の重要性を発信＆利用実演 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国瀬戸内圏災害通信連合を介した全国規模の広域連携



無線で人と人を「つなぐ」